



# 一期一会

- 17 -

<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh15/>

## 第四十一回 卒業式

春を思わせる暖かな日差しの中、第41回卒業式が行われました。卒業証書授与のあと、校長式辞、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞、卒業の歌がありました。紙面で再現します。



河津桜が満開でした

### 送辞（在校生代表）

三月十五日。卒業の日。(晴れ。)

先輩方の中学校生活最後の日。十五中生最後の日。

この場所で過ごした三年間という年月。かけがえのない時間。

コロナ禍の限られた時間や環境の中で、それでも努力することをやめなかった先輩方は、やはり私たちの憧れです。

体育大会では主役として観客を盛り上げるようなパフォーマンスを見せてくれたり、リレーは迫力あるスピード感に圧倒されるほど、かっこよかったです。また、委員会活動においてはいまの十五中の礎を築いてくださいました。

部活動において府大会や近畿大会、全国の舞台で活躍された先輩。自分たちの夢舞台をつかみ取った先輩、仲間との絆。大会が中止になったり、目の前の目標が絶たれたりしたときでさえ、走ることをやめなかった先輩。その姿を見せていただいたことこそ、私たちの財産です。今年は卒部直前まで思うように活動ができず、先輩との時間が限られてしまいました。もっと先輩とたくさん練習をしたかった。もっと先輩にいろいろ教えてもらいたかった。もっと先輩と試合に出たかった。もっととなりで話していたかった。そして、もっと早く恩返しがしたかった。

私たちにとっても、悔いの残らない一年だったかと問われると疑問が残りますが、もしかしたら普通に過ごしにくく中では感じられなかった時間の流れがあったのかもしれない。

「一生懸命に勝る美しさはない」「やるからには全力で」

私たち二年生は、楽しむ時も真剣な時も、いつもどんなときも全力で頑張っている先輩が大好きでした。十五中生として出会った日から、今日まで優しく接していただいた先輩。その背中を追って、何事も本気で一生懸命頑張れる人になる事を目標に頑張っていきます。私たちがわからなかった時には常に手本となって一から丁寧に教えてくださったあの日の優しさを。私たち後輩のミスも優しくフォローしてくださったあの日の思いやりを。隣で一緒に泣いてくださったあの涙を。そして、一生懸命の中

にあったあの笑顔を。私たちはきっと忘れません。

また、遊びにきてください。

春からはコロナが今よりも落ち着き、やりたい事に全力で挑戦できるような一年になることを願っています。先輩方が卒業されるのは寂しいですが、新しい毎日いっぱい楽しんでください。今日までありがとうございました。

三年生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

## 答辞（卒業生代表）

3年前の4月、僕たちは、まっさらな制服に袖を通し、「たくさん友達作りたいな」「どんな学校生活になるんだろう」という期待と、新生活や勉強への不安をカバンに詰め込んで、この十五中の門をくぐりました。そうして始まった1年生の頃は、すべてが新鮮でした。カレーを作った校外学習、先輩方に憧れた体育大会、全力でやるぞ！と意気込んだ全力大会など、楽しいことがたくさんあったので中学校生活はいいスタートをきることができました。

新型コロナウイルスの影響で分散登校から始まった2年生。キャンプや職場体験、合唱コンクールなど楽しみにしていた行事が次々になくなり、今まで当たり前だった日常も失われ、思うような学校生活を送ることができず悔しさの募る一年でした。それでも、姫路セントラルパークに行けたことがとても嬉しかったです。クラスメイトと時間を忘れるほど笑い合ったことを、今でも鮮明に覚えています。

3年生になり、修学旅行のスローガンが決まりました。「未完成（みかん星）の卒業バック」。和歌山の名産である“みかん”と、まだまだ未熟であることを示す“未完成”を合わせて、「最高の思い出をカバンに沢山詰め込もう」という意味です。修学旅行中は警報が出るほどの大雨が降っていましたが、体験の全てに面白さがありました。苦しくなるほど笑ったバスレクの動画、芝滑りをしたわんぱく公園、雨で濡れて雑巾みたいに服を絞ったほんまもん体験など数多くの思い出がありますが、僕が一番印象に残っているのはバスの中で過ごした時間です。天候が悪く、バスで過ごす時間が増えてしまいましたが、みんな様々な楽しみ方を生み出していました。早押しクイズだったり、しりとりをしたり、雑談をしたり。そうしたことでお互いを深く知り、仲を深めていきました。学校へ帰るバスの中で、ある友達が「帰るの早すぎるー！」と大きな声で叫んでいました。僕はそれを聞いて、「本当に楽しかったし、こんな風に帰りを惜しめる修学旅行になってよかった」と思いました。修学旅行中、校長先生は「雨は最悪かもしれないけれど、雨だった修学旅行が一番印象に残る」と仰っていました。あの時は実感がありませんでしたが、今思うと本当にその通りになったと思います。どんな時でも全力で楽しんだことで、最高の思い出を作ることができました。

10月に行われた体育大会では、今までと違い最高学年として自分たちが引っ張っていく立場となりました。しかし、準備が始まった頃、「自分の役割だけしていればいいや」という雰囲気がクラスにあり、なかなか団結できずにいました。また、コロナ禍での開催で制限が増え、思い通りにいかないことも多くありました。しかし少しずつ準備を進めていくと、次第に助け合えるようになり、ダンスの練習を重ねれば、お互いに教え合うことができるようになりました。応援旗や競技中応援で困っていたら、自然と「手伝うよ!」という優しい声が教室に飛び交うようになりました。私がクラスに指示を出せず困っていたとき、「こっちのグループをまとめるよ!」と言ってくれた友達もいました。そんな風に少しずつ変わっていったわたしが迎えた体育大会当日は、全員が団結し、一人ひとりが輝いていました。体育大会を通して、ひとつの目標に向かって全力を尽くすことの楽しさを感じました。そして何より、何事にも全力で取り組む41期生の団結力を見せることができたと思います。

また、部活動も忘れられない思い出の一つです。最初の頃は部活動と勉強を両立させるのが大変で、練習してもなかなか上手くならず、落ち込んだこともありました。それでも諦めず最後まで続けることができたのは、仲間がいたからです。試合での緊張をほぐすために笑わせてくれたこと、ミスをして落ち込んでいても「ドンマイドンマイ!次いけるよ!」と声をかけてくれたこと。そんな仲間の行動一つ一つが私の中で大きな支えとなりました。冬の寒い日の朝練、夏休みの暑い中での練習。共に多くの季節を乗り越えて、成長してきた仲間は私にとってかけがえのない存在です。

そんなかけがえのない仲間達へ。僕たちにとって友達は必要不可欠な存在です。みんなはいつも落ち込んだ時に慰めてくれました。嬉しいことがあったら一緒に喜んでくれました。特別なことがなくても仲間と一緒にいることができたから、日々の生活を楽しむことができました。進む先は違っても、一緒に多くのことを乗り越えていきたいです。これまで仲良くしてくれてありがとう。

そして、残念ながらこの場にはいないけれど、僕たちを支えてくれた後輩へ。15中のいい所は挨拶ができることです。この伝統を大切に、これから入学してくる後輩たちに憧れられるような先輩になってください。今よりもっと過ごしやすい十五中を創ってくれと信じています。今まで私たちを支えてくださった先生方。時に厳しく、時に優しく寄り添ってくださったおかげで、私たちは少しずつ成長することができました。どんな時も向き合い、誰よりも私たちのことを一番に考えてくださった先生方には感謝してもしきれません。三年間、本当にありがとうございました。

最後に、お父さん、お母さん。今まで一番近くで見守ってくれてありがとうございました。家族の支えがあったからこそ、私たちは今ここに立っています。どれだけ朝が早くても、毎日お弁当を作ってくれてありがとう。夜遅く、塾まで迎えに来てくれてありがとう。相談に乗ってくれたり、私たちのしたいことをさせてくれてありがとう。反抗してしまい、大変な思いをさせてしまったこともあったと思うけれど、そんな時でもお父さんとお母さんは必ず私たちに寄り添ってくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。お父さんやお母さんのような素敵の人になれるよう、これからも日々努力していきます。そしていつか、私たちが親孝行する日を、楽しみに待っていてください。

3年間を経て、未完成だった卒業バッグに沢山の思い出を詰め込むことができました。3年前、期待と不安を背負っていた私たちは、多くの人に支えられ、今新たな世界に旅立とうとしています。私たちはこれからも、多くの壁にぶつかることでしょう。しかし、私たちはどんな困難に直面しても、完成した卒業バッグをしっかりと握りしめ、仲間と全力で乗り越えていきます。私たちを支えてくださった皆様への感謝と、豊中市立第十五中学校で育った誇りを胸に、歩みを止めず進んでいくことをここに誓い、卒業の言葉とさせていただきます。

## 式辞（校長）

168名の41期生の皆さん、皆さんの三年間の中学校生活は、新型コロナウイルスにより1年生の3学期の途中から突然の休校となり、2年生の6月に再開した後もずっと新型コロナウイルスが流行ったり収束したりの繰り返してました。そのため、昼食時には友だちと喋ることもできず、体育大会は短縮プログラムでの実施となり、クラブ活動もそれまでのように思い切りできませんでした。特に3年生では入試の直前に学級休業が起り、出席停止となる人が多く、一番心細い時にお互い励ましあうことができず本当に不安であったことと思います。

しかし、そのような環境の中、皆さんの多くはいろいろな事を学び、自分の力を伸ばそうと努力されてきました。それどころか、そんな環境の中だからこそ自分がこれまでやろうとしなかった読書に挑戦した人や、空いた時間で基礎体力をつけることやクラブの技術面での苦手を克服しようと努力した人、感染症と戦うために将来は医療関係の仕事に就こうと決意した人もいました。

私は、皆さんと面接をし、また一人ひとりが書いた「自己申告票」を読み、そんな皆さんの思いにたくさん触れて大変感銘を受けました。他にも、薬剤師、科学者、フラワーアレンジメント、理学療法士、医師、幼稚園や保育園の先生、デザイナー、公認心理士、プログラマー、気象予報士、管理栄養士、キャビンアテンダント、...。そこには、ただの夢としてではなく、具体的な努力を伴った決意が現わされていました。中には「世界の食糧問題の解決」「動物の殺処分の問題をなんとかしたい」「将来

の海外留学のために英語力を磨きたい」「海外の水不足を解消するためのシステムを考えたい」といった、将来の自分が社会に貢献するイメージや志が生き生きと語られているものもいくつもありました。

また、中学校で学んだこととして、自分の課題だった「人見知り」が友だちのおかげで克服できた、自分の想像もしていなかった考え方を友だちから聞き視野が広がった、クラブの部長やリーダーを担うことにより精神的に成長できた、といった周囲の人への感謝や自分の成長を書いている人もたくさんありました。

このところ、新型コロナウイルスの流行や戦争といった暗いニュースが多い中で、皆さんのこうした夢や志、そして成長は、これからの時代にとって大きな希望であると感じました。皆さん一人ひとりの思いが集まって、次の時代を、新しい世の中を作ってゆくのです。私はそれを確信し、とても期待しています。

しかし一方、皆さんの中には夢や志なんてない、とか中学校生活の中で今ひとつ頑張ることができなかつた、という人もいることと思います。そんな思いを今は持っていたとしても、それはそれでいい、と私は考えています。今ひとつ頑張れなかつた、ということも、とても貴重な経験です。自分の生き方について深く悩んだ時間や、挫折した時の感情は、それを味わった人にしかわからないのです。それはその人だけの経験値となり成長となり、そのままその人の強みにもなります。人生は、甲子園をかけたトーナメントの試合のように、1回負けたら終わり、というような単純なものではありません。そして、目指すべき場所は甲子園だけとも限らないのです。

義務教育の終了は、自分らしく生きられる場所を探すための旅の第一歩を踏み出すようなものです。新幹線で目的地まで早く着くことを目指すのもよいですが、各駅停車でゆっくり周りの景色を楽しみながら行く旅もまた素敵です。道中、さまざまな出会いがあり目的地が途中で変わることもあるかもしれません。それはそれでまたよし、です。今は人生100年時代と言われるます。皆さんの人生の旅はまだ始まったばかりなのです。

私自身は、皆さんと接したのはこの1年だけでしたが、皆さんが3年間をかけてお互いに、そして先生たちとも良い関係を作ってきたことは、修学旅行や卒業前1週間の様子を見ているだけでもとても良く分かりました。

卒業生の皆さん、十五中で友と作った数多くの思い出は、貴重な財産となります。また挫折や失敗の経験も、逆境に対応する力を皆さんにつけてくれたことと思います。中学校三年間のさまざまな経験から培った力を礎にして、大きくはばたいてください。卒業後も新しい出会いを大切に、人とつながり自分らしく課題を乗り越えていってほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子さまのご卒業、まことにおめでとうございます。三年間本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有難うございました。今後とも地域の学校として、どうぞよろしく願いいたします。

以上、卒業生の前途を祝い、私からの式辞といたします。  
四十一期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

卒業の歌はアンジェラ・アキさんの『手紙～拝啓 十五の君へ～』でした。新型コロナウイルスの影響で、練習はほとんどできなかった中ですが、41期生はとてもきれいなハーモニーを聞かせてくれました。

大変感動的な卒業式でした。  
卒業生の前途に幸あれと願います。



#### ▲式場を彩ったスタンドグラスとタペストリー



◀その日の職員室横の黒板

## むらたけ会の皆さま 有難うございます。

3月10日に41期生の「タイムカプセル」が、河津桜の下にあるフラワーポットの下に埋められました。これは、むらたけ会の方のご尽力で毎年卒業式の前に行っている行事で、20歳を迎えるときに取り出すそうです。

中学校での思い出の品がいっぱい入っているのですね。  
お世話してくださったむらたけ会の皆さま 有難うございました。

